

第 10 回シンポジウム

開催日：平成 25 年 3 月 4 日（月）15:00 ～ 18:00

場 所：スタジアムプレイス青山 8 階 801 室

スポーツツーリズムとスポーツによるまちづくり

- I. 講演 加藤 隆司 氏（国土交通省観光庁 審議官）（資料のみ掲載）

演題：スポーツツーリズムの推進について

- II. 第 1 回 スポーツ振興賞授賞式（略）

- III. スポーツ振興賞受賞者による発表（略）

☆スポーツツーリズム賞

〈国土交通省観光庁 長官賞〉受賞者

さいたまスポーツコミッション

発表者：星野 正 氏（事務局）

〈日本スポーツツーリズム推進機構 会長賞〉受賞者

矢島カップ Mr. 鳥海バイシクルクラシック大会実行委員会

発表者：佐藤 晃一 氏（副実行委員長）

☆スポーツツーリズム賞

〈経済産業省商務情報政策局長賞〉受賞者

一般社団法人日本スポーツ GOMI 拾い連盟

発表者：馬見塚健一 氏（代表）

〈日本商工会議所 奨励賞〉受賞者

NPO 法人神岡・町づくりネットワーク

発表者：田口由加子 氏（事務局）

〈スポーツ健康産業団体連合会 会長賞〉

ウルトラトレイル・マウントフジ実行委員会

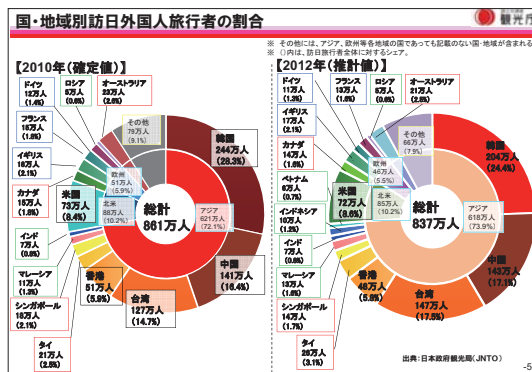
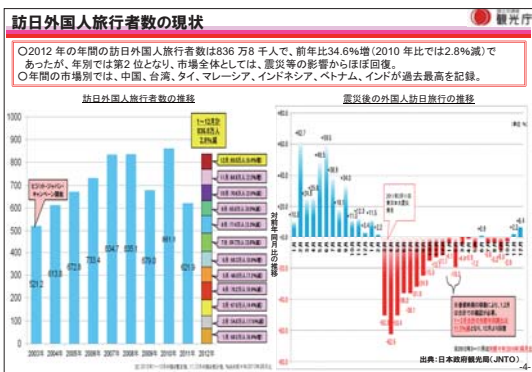
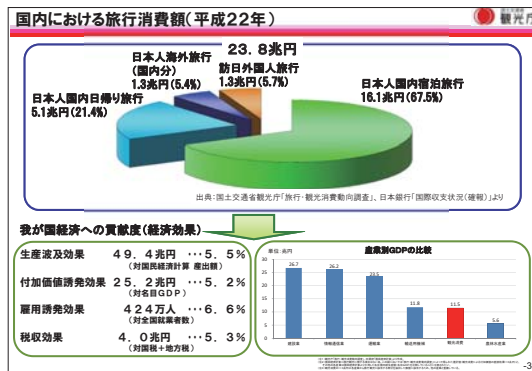
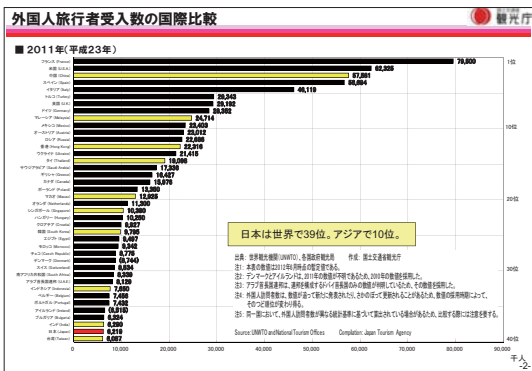
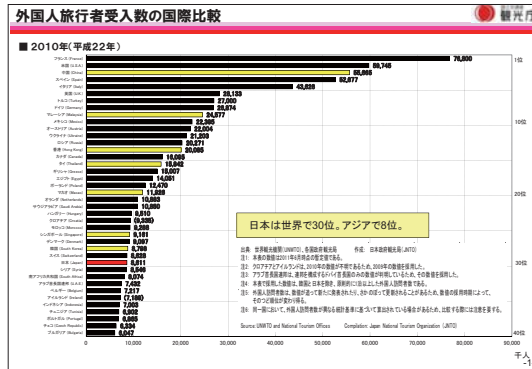
発表者：鎬木 毅 氏（実行委員長）

I. 講演

演題：スポーツツーリズムの推進について

講演者：加藤 隆司 氏（国土交通省観光庁 審議官）

(公社)スポーツ健康産業団体連合会
第10回シンポジウム
スポーツツーリズムとスポーツによるまちづくり



観光立国推進本部から打ち出されたスポーツ観光

趣旨
観光立国の実現は、今後の我が国の成長戦略の柱として位置づけられるべき重要課題。政府を挙げて一体的・総合的に取組を推進する体制として平成21年12月、国土交通省に「観光立国推進本部」を設置した。

構成員
【本部長】 国土交通大臣 【副本部長】 内閣官房副長官及び全府省副大臣、その他本部長が指名する者（警視庁）
【事務局長】 国土交通副大臣 【事務局次長】 国土交通大臣政務官

WG
観光連携コンソーシアム
エコツーリズム、グリーンツーリズム、文化観光、産業観光、医療観光、スポーツ観光等の多様な観光メニューについて、関係省庁の連携による総合的な振興策の検討を行う。

ニュートーリズム
平成22年1月
スポーツ観光
医療観光
外国人が日本の医療機関で治療、健診等を受ける目的で訪日旅行し、併せて国内観光を行う
ファッション・食・映画・アニメ等
× 観光
日本のファッション・食を目的とした訪日旅行、ヒット映画のロケ地訪問、アニメ関連スポット訪問等

省庁連携による総合的な振興策の検討

新「観光立国推進基本計画」（平成24年3月30日閣議決定）

（観光資源の活用による地域の特性を生かした魅力的な観光地域の形成）
（新たな観光旅行の分野の開拓）

○スポーツツーリズムの推進
スポーツツーリズムとは、スポーツを「観る」「する」ための旅行に加え、スポーツを「支える」人々との交流や、旅行者が旅先で多様なスポーツを体験できる環境の整備も含むものであり、国内旅行需要の喚起やゴルフ、スキー等スポーツへの指向性の高い外国人旅行者の訪日促進に寄与するものである。
MICE推進の要となる国際スポーツイベントの招致活動は、訪日プロモーションやシティセールスと連動することで相乗効果を有するものである。
このため、平成23年度に策定された「スポーツツーリズム推進基本方針」に基づき、地域スポーツコミッションの設立を促すとともに、情報の集約・発信、国際スポーツイベントの誘致・開催支援などを担うスポーツツーリズム推進連携組織を創設する。また、2019年のラグビーワールドカップの日本招致成功の経験を活かし、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの招致に取り組む。
○マリナレジャーを活用した地域観光の振興等（略）
（観光旅行の促進のための環境の整備）
○自転車利用環境の整備（略）

山岳国だから楽しめる多様なスポーツ

日本の国土の森林率は68.3%もあり、山岳スポーツからニューエンデュアランススポーツまで、多様なアウトドアスポーツを楽しむことができる。森林率は、フィンランドの73.9%に続いて世界で2番目。

滑空する（パラグライダー）
滑る（スキー、山スキー）
飛ぶ込む（キャニオニング）
登る（ヒルクライムレース、登山）
滑下する（バジージュンパ）
渡る（リバーラフティング）
歩く（ウルトラマラソン）
走る（トレイルラン、ジョギング、マラソン）

日本の自然は、ヨーロッパに比べると、急峻な山岳地帯や深い谷が続く、険しい地形が多いが、一方で、その険しさがアウトドアスポーツの利点にもなっている。例えば、急流を下りるバーラフティングやキャニオニングなどは、平地を走る川では味わえないスリルと楽しさを与えてくれる。また、等高線をまたぎながら頂上をめざす登山もあれば、等高線上を移動する登り降り少ないトレッキングも人気がある。（原田朝枝）

ターゲット国調査でも「スポーツ」のニーズは大きい

今後の訪日旅行でしたいことは？

	n	プロスポーツ観戦	ゴルフ	マダソン・ランニング	ツナスキー・アイスノースポーツ	トラトレアデックスボウリング・登山・スキー	ボケタリピン・グン・マシノス	その他のスポーツ
オーストラリア	258	2.7	3.9	0.8	14.7	8.5	3.9	0.8
韓国	381	2.4	3.9	1.0	12.9	8.4	1.8	0.0
台湾	395	6.6	4.1	3.8	24.1	12.9	10.6	0.3
中国	364	6.6	15.9	17.3	31.9	23.1	19.8	0.5

観光庁 ターゲット国ニーズ調査 平成22年度

訪日外国人の消費動向調査（平成23年）

■ 今回したこと
■ 次回したいこと

日本の消費動向調査（平成23年）

○調査対象
日本を出国するVJ事業15の重点市場（国・地域）の訪日外国人（トランジット、乗員、1年以上の滞在者等を除く）
○サンプル数
前半期6,500件づつ合計約26,000件の内訳（任意回答事項のため）
※調査内容について観光庁やJICAからダウンロード可
http://www.mit.go.jp/kankochosaiyou/toukei/syoushiyo_kata.html

次回の日本訪問について
スキー・スノーボード、ゴルフ、スポーツ観戦などをはじめ、四季の体感、自然体験につながる、トレッキングなどのアウトドアスポーツへの期待の高さがうかがえる結果となっている。

観光庁 訪日外国人の消費動向調査 平成23年度調査より

日本の魅力に気づかせる力、それがスポーツインバウンド策としての「観る」「する」スポーツ

◎英国(The British Tourist Authority)
・旅行目的のうち20%がスポーツ参加目的
・休日の過ごし方の50%がスポーツ参加・観戦目的

◎カナダ(the 1998 Canadian Travel Survey)
・国内旅行のうち37%がスポーツ参加・観戦目的

◎米国(the Travel Industry Association of America)
・50マイル(約80km)以上離れた旅行をする場合、38%がスポーツ参加・観戦目的

ゴールデンオールディーズ・ワールドラグビーフェスティバル in福岡

開催概要 平成24年10月28日～11月4日
 主催：ゴールデンオールディーズ・ワールドラグビー事務局
 2012ゴールデンオールディーズ・ワールドラグビーフェスティバル福岡実行委員会
 後援：(財)日本ラグビーフットボール協会
 九州ラグビーフットボール協会
 協力：観光庁、福岡県、福岡市

ゴールデンオールディーズラグビーワールドフェスティバルとは
 ○世界20数カ国の35歳以上のラグビー愛好家が2年
 に1度集う国際的なスポーツコンベンション
 ○1979年に第1回大会がスタートし、今大会で19回目。
 世界中の魅力的な都市を舞台として開催され、今回、
 福岡においてアジア初開催

特徴
 幅広い年代が楽しめる独自の試合規則
 例えは20歳から44歳までは赤シャツを着用し、このプレイヤー
 に対してはタックルは不可とするなど
 開催地そのものを家族と楽しむプログラム
 ・開会式後は、福岡市内をバレード
 ・試合の中日には、熊本や九州各地への
 オプションツアーを用意
 参加者約2500人の内約1500人が外国人

日次	種別	内容
1日目	10/28 (日)	開会式より開閉式の両方 「ラグビー」バレード 「ラグビー」バレード
2日目	10/29 (月)	ラグビーバレード ラグビーバレード
3日目	10/30 (火)	ラグビーバレード ラグビーバレード
4日目	10/31 (水)	ラグビーバレード ラグビーバレード
5日目	11/1 (木)	ラグビーバレード ラグビーバレード
6日目	11/2 (金)	ラグビーバレード ラグビーバレード
7日目	11/3 (土)	ラグビーバレード ラグビーバレード
8日目	11/4 (日)	ラグビーバレード ラグビーバレード

大会スケジュール(大会HPより)

ゴールデンオールディーズ・ワールドラグビーフェスティバル in福岡

パレードの様子：チームお揃いのジャージ、民族衣装や衣装をきて、屋外に集まりながら多くの観客(福岡市内)

スリランカとの国交60周年記念試合の様子

ツアーの様子：九州新幹線

試合の様子：ラグビーの各分科によりタックルやワールドの制限があり、幅広い年代がプレーに参加できるルール

ラグビーバレードの様子：熊本城

パーティーの様子

スポーツツーリズム推進連絡会議の創設(平成22年5月)

平成22年1月「観光立国推進本部」での提唱を受けて創設

構成

- 関係省庁：観光庁、総務省、外務省、文部科学省、厚生労働省、経済産業省
- 関係企業：旅行会社・鉄道会社、放送局・広告代理店等
- 観光関係団体
- スポーツ団体：プロスポーツ団体、統括団体、競技団体
- 有識者：東田康彦、早稲田大学教授、高橋健雄、筑波大学准教授

本会議5回/4Wト延べ20回/参画委員・協力者100名超

「スポーツツーリズム推進基本方針」策定(平成23年6月)
 (国の基本方針(案)、自治体・事業者の実務マニュアル、観光庁HPでダウンロード可)

スポーツツーリズムで目指すべき日本の姿

〇「より豊かなニッポン観光の創造」
 〇「新しいビジネスの創出」

推進すべき基本的方向

- ①コンテンツづくりとスポーツ観光まちづくり
- ②旅行商品化と重層価値の推進
- ③スポーツツーリズム人材の育成・活用
- ④国際競技大会の積極的な招致・開催

日本スポーツツーリズム推進機構(JSTA)の創設

一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構(JSTA)の概要

～我が国のスポーツツーリズムの中核的組織・対外代表組織として本年4月11日産官学で創設～

目的
 スポーツツーリズムの普及定着により、地域間交流の活性化並びに訪日外国人の拡大につなげるため、広く地域、団体、企業、大学等のネットワーク構築を図り、国際スポーツ大会等の誘致をはじめ、地域づくり、旅行商品造成、人材育成、国内外への情報発信、調査研究等に関する事業を行い、地域経済の活性化、雇用機会の増大等が国経済の発展並びにスポーツの振興、健康の増進、自然との共生等豊かな国民生活の向上に貢献し、もってスポーツ立国及び観光立国の実現に寄与する。

http://sporttourism.or.jp/

JSTAの組織図

事業
 (1) スポーツツーリズムに取り組む地域等の全国的なネットワークの構築
 (2) スポーツツーリズムに関する地域プラットフォーム(スポーツコンベンション)形成の支援
 (3) 国際スポーツ大会等の誘致・開催に関する協力、国際、後援
 (4) スポーツを活用した旅行商品の普及及び造成の支援
 (5) 旅行先におけるスポーツ活動の利便性向上のための環境整備、誘客
 (6) 大学等と連携したスポーツツーリズム人材の育成、研修会の開催
 (7) 国内スポーツ情報の発信、国内外への情報発信、調査イベントの開催
 (8) スポーツツーリズムの推進に関する調査研究、各種表彰・顕彰、イベント後援
 (9) 海外のスポーツツーリズム組織との交流、海外視察旅行の実施

スポーツ行政の大きな動き

◎根本法のチェンジ
 旧法・スポーツ振興法「スポーツそのものの振興」
 「営利のためのスポーツは振興しない」
 新法・スポーツ基本法(平成23年6月公布・同8月施行)
 「スポーツを通じた体力向上・健康増進・国際交流・地域活性化等」
 「スポーツ産業事業者との連携」
 スポーツ基本法に基づく「スポーツ基本計画」を昨年3月に策定
 (→地方も国の計画を参照して「地方スポーツ推進計画」策定へ)

◎スポーツ行政所管(原則、教育委員会)の柔軟化
 地方分権により「スポーツ・文化」は首長部局の所管も可能に
 沖縄県(文化観光スポーツ部)H23～ 秋田県(観光文化スポーツ部)H24～
 三重県(地域連携部スポーツ推進局)H24～ 佐賀県(文化・スポーツ部)H24～等
 約40%(19/47)の都道府県、約80%(16/20)の政令市が首長部局でスポーツ振興を所管
 (平成23年7月現在)

ランナースインフォメーション研究所 コース認定状況 平成25年3月現在 合計15コース 観光庁

スポーツ観光マイスター任命状況 平成25年3月現在

[illegible]

スポーツ観光マイスター任命状況 平成25年3月現在

[illegible]

 觀光庁

2020年オリンピック・パラリンピックをニッポンに。
本年9月7日、いよいよ開催都市決定！

